

## 令和3年度 練馬区立開進第四中学校 学校評価報告書

練馬区立開進第四中学校  
校長 児島 泰彦

## 1 自己評価結果

## (1) 概要

- ① 毎年同じアンケート項目で実施し、3年間の経年変化を比較している。
- ② アンケート項目の「そう思う」「ややそう思う」を『プラス評価』とした。
- ③ アンケート項目の「あまりそう思わない」「そう思わない」を『マイナス評価』とした。
- ④ プラス評価を、「100～80%をA」「79～60%をB」「59～40%をC」「39～0%をD」の4グループで分類した。
- ⑤ 昨年度と比較した各評価の±5%の増減を各評価の『上昇』・『下降』とした。
- ⑥ 昨年度と比較し、評価の高い項目は今後も指導を継続し、評価の低い項目を中心に来年度に向け教育内容を見直し改善していく。

## (2) 昨年度との全体比較

下記の表は、昨年度と一昨年度の結果と比較し全体的な傾向と特徴をまとめたものである。

	3年度	2年度	元年度
プラス評価が 100～80%の A 評価だった項目数	17	17	17
プラス評価が 79～60%の B 評価だった項目数	1	0	1
プラス評価が 59～40%の C 評価だった項目数	0	1	0
プラス評価が 39～0%の D 評価だった項目数	0	0	0

今年度 80%以上の家庭から回答をいただき、ほとんどの質問項目がプラス評価 A の 80%以上であったことはうれしいことである。しかし、自由記述の声を見ると個々の対応へや保護者からの要望は引き続き強いものがある。特に家庭学習や補充授業の充実を望む声は例年高い。

## (3) プラス評価の資料と分析

## ① プラス評価が 100～80%の A 評価だった項目

1	本校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていると思いますか。
2	本校は、生徒の基礎学力を定着させるための取組を適切に実施していると思いますか。
3	本校の生徒は、よくあいさつができると思いますか。
4	本校の生徒は、ルールを守り、規律ある生活を送っていると思いますか。
5	お子様は、友人と仲良く、楽しく充実した学校生活を送っていると思いますか。
6	お子様は、相手の立場に立って考えたり行動したりすることができるようになったと思いますか。
7	本校は、生徒に校内の美化・環境整備に適切に取り組ませていると思いますか。
8	本校は、生徒に安全・防災（避難訓練など）に適切に取り組ませていると思いますか。
9	教員は、お子様の話を良く聞き、困った時には相談にのっていると思いますか。
10	教員は、お子様が悪い事をした時にはきちんと叱って指導していると思いますか。

11	本校は、学校だよりや学年・学級だより、ホームページ等で学校の様子を積極的に知らせていると思いますか。
12	本校は、地域の小学校と連携した教育活動に適切に取り組んでいると思いますか。
13	本校の部活動は、充実していると思いますか。
14	お子様の各教科の評価・評定は適切に行われていると思いますか。
15	本校は、生徒の将来を見通した進路について適切に指導していると思いますか。
16	本校は、運動会や文化発表会などの学校行事が充実していると思いますか。
17	本校の保護者や地域社会の人たちは、学校に協力的であると思いますか。

② プラス評価が昨年度と比較して5%以上上がった項目【プラス評価の上昇】

5%以上上がった項目はなかったが、上がる余地を残した項目自体がほとんど無い状態である。その中で、18項目中、17項目でプラス評価Aをいただき、さらにその評価の10項目が90%以上であった。

特に、「落ち着いた雰囲気」「ルール・規律ある生活」「友人と仲良く・充実した学校」「相手の立場に立った」「美化・環境整備」「安全・防災への取り組み」「学校の様子を積極的に知らせている」については、95%以上を超える理解が得られている。

(4) マイナス評価の資料と分析

① プラス評価が79~60%のB評価だった項目

3	お子様の家庭学習の時間は、年度当初より増えたと思いますか。
---	-------------------------------

昨年度より、3%良くなったが、まだ、伸ばす余地はある。生徒の家庭学習の習慣付けについて、学校でやり方・方法については教えることができるが、実際に家庭での時間の使い方は生徒本人によるところが大きい。場所は各家庭であり、保護者が適切な時間と場所を子供に提供しなければならない。今後、帰宅後、家庭でのスケジュール管理への指導を図る必要がある。

② プラス評価が59~40%のC評価(39~0%のD評価だった項目)

『なし』

③ プラス評価が昨年度と比較して5%以上下がった項目【プラス評価の下降】

『なし』

2 学校関係者評価

(1) 成果

① 保護者アンケートの回答において、ご回答いただいたほとんどの質問項目がプラス評価Aの80%以上であり、さらに、95%以上の項目が7つもあった。これは、日頃の教育活動が概ね理解されているものと考え評価でき、引き続き、充実した教育活動を期待している。

② 「落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている」評価が97%と高いことは、とてもうれしいことである。これは、生徒の状態が良く、全ての教育活動が下支えしている結果だと考えられる。コロナ禍での生活も2年目となり、従来の学校生活からの変化へ十分対応ができはじめていることもその理由ではないだろうか。

## (2) 課題

- ① 家庭学習の習慣付けについては、中学校で急に変わるものではない。これは、各家庭による所も大きいですが、学校の指導でよくできる余地も考えられる。そのため、学校と家庭の両方の協力で改善を目指す。
- ② 保護者の記述は多種・多様で、宿題を見ても増やして欲しい方から減らして欲しい方まで見受けられる。また、コロナ禍により活動が制限された行事や部活動などはわずかではあるが、良い評価が減少している。

## (3) 改善策

- ① 家庭学習について、各教科・学年でも指導している。また、毎日の生活ノートや毎回の定期テストでも計画表を書き、学習の準備ができるようにしている。自主課題や宿題により習慣付けできるように生徒に働きかけを継続していく。各家庭での協力も大きく影響するので、できればコロナ禍で開催できないが、保護者会などで各家庭へも呼びかけを行う。家庭学習とは、学力の向上を望むものであり、自主性を育むことにつながるので、キャリア教育でも学習の大切さを理解させる。
- ② 学校で行っていることの意味や必要性を丁寧な説明で続けていく。学校の全体的な様子だけでなく、学年便りや各教科からの連絡など、情報の提供内容をより細やかなものにしていく。また、個別に聞いていただく機会をつくり、わからないことから不安・不信につながることを防止する。

## 3 評価結果の公表等

- (1) 3月中に評価結果を保護者に配布
- (2) 3月中に学校ホームページに掲載

## 4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

今年度も新型コロナウイルスの影響により、学校の教育活動全般で様々な対応を余儀なくされた。本来学校は開かれた場所であり、地域や保護者の方々、そして近隣の小学生が身近に触れることができる場所としてあるべきである。しかし、本校の特色である小中交流教室を生かした連携活動は昨年度に続き思うようにできる状態ではなかった。

ここで活用したのがICT機器である。本来は児童に来校してもらい実施している部活動体験は、各部ごとに映像を作成して小学生に視聴してもらった。また、児童会・生徒会の交流もオンラインを用いて非接触型の交流を実施した。保護者会の際には密を避けるため体育館へは集合せず各教室に入っただき、オンラインで全体会を開くなど工夫を凝らした。また、学校ホームページに毎日生徒の様子をアップし、保護者の方が学校に来校しなくても生徒の活動の様子が見られるようにした。さらに2月には各学年で学級閉鎖を行う必要があったが、その際にはタブレット端末を用いて学校と各家庭をつなげ、オンライン授業を実施した。

すべての活動において、以前と同じようにできているわけではない。しかし、これからもその活用方法を模索しながら今後の教育活動を進めていきたい。

まだまだ先を見通せる状態ではないが、今できることを着実に実行し、教職員の力を結集して次年度も取り組んでいき、保護者や地域の皆様の信頼を得られるよう邁進していく。